

ジェンダーメインストリーミング研修

(1-2日@パヤオ、5-6日@バンコク、8-9日@
チェンライ)

田上・石本短期専門家と Foundation for Women (FFW) と Live Our Lives (LOL) のスタッフ2名が中心となり、ジェンダーメインストリーミング研修を開催しました。人身取引の問題はジェンダーと深く関わりがあり、過去の研修でもジェンダーについて講義を取り入れてきました。今回の研修は、参加者がジェンダーという概念を理解し、人身取引問題においてジェンダー視点をなぜもつ必要があるのか、どのように業務で取り入れていくのかを考えることを目的に、一日半のカリキュラムを組んで行いました。この研修にはソーシャルワーカーをはじめ、警察、先生、医療関係者、NGO など合計77名が参加しました。

最初にジェンダーとセックスの違いを明らかにし、次にタイの社会におけるジェンダーのステレオタイプと先入観について参加者から挙げてもらい、それらがどこから来たものなのか等について議論しました。

「ジェンダーとメディア」のセッションでは、日本とタイの雑誌等を見ながら、その雑誌が発信しているメッセージを読み取るワークをしました。日々接するメディアがどのように社会・家族・個人に影響している、それがどのようなジェンダー観を構築していくのかを分析しました。

ここでは、メディアから受けている情報は必ずしも真実ではなく、作り手がかなり操作している場合が多いため、我々は何が真実かを見極められる力、メディアリテラシーの重要性が説かれました。



(雑誌を分析している様子)



その後、左横の写真のように、「ジェンダーにもとづく暴力の木」を使いながら、ジェンダーをもとにした暴力の原因とそれがどういった暴力や影響を及ぼすかについて議論を行いました。

この演習では、男女共に人身取引被害に遭う可能性があるものの、性的搾取の人身取引被害に遭うのは女性がほとんどで、人身取引はジェンダーにもとづく暴力の一つであるということを理解しました。

グループワーク等を通して、基本的なジェンダーの理論を学んだあとは、偏ったジェンダー観によって人身取引被害者がいかに苦しむかを実際に体験してもらうために、人身取引被害者の経験をもとに短い物語をつくり、ロールプレイを行いました。人身取引被害者のトラウマや二次被害を受けたときのショックを疑似体験することによって、今後人身取引被害者を支援していく上で、どのような姿勢で接していけばいいのかを考えました。

最後は、エンパワメントに関するゲームをしました。「人間、一人ひとり皆潜在的な力をもっているが、この力は外部の働きかけによって開花するものであるので、我々支援者は常に、被害者の潜在的な力を引き出すようなはたきかけをしなければならない」と言う言葉で研修を閉めました。

以下、短期専門家お二方の感想です。

【田上専門家】私の役割はジェンダー研修内容を組み立て、現地のフェシリテーターへ研修を伝授し、ワークショップ当日は助言と支援を行うという多岐に亘るものでした。パヤオ、バンコク、チェンライ3会場での印象は多少異なりますが、ワーク中にMDTメンバーが率直に語るジェンダー

の内容には驚きの連続でした。ジェンダー不平等の原因が女性差別からというのは国際的共通認識ですが、それ以外にタイ独自の経済的・宗教的・文化的・社会的背景がタイのジェンダー課題を二重にも三重にも深刻にしていると感じました。

最後のチェンライでの研修を終えバンコクに戻る飛行機の中で故松井やよりを思い出しました。2002年12月故人となった私の敬愛するフェミニスト・ジャーナリストの松井さんは、生前「ODA（政府開発援助）はジェンダーの視点を意識的に入れていかないといけない、JICA など援助を行う機関は女性がもっと発言してジェンダーに対する援助行政をすべきだ」とおっしゃっておられました。天国の松井さんは今回の研修をどう評価してくれるでしょうか。

【石本専門家】

今回の研修で私に与えられた課題は、ジェンダーに基づく偏見や差別により発生する二次被害や被害者が抱えるトラウマについて学んでいただくことでした。研修をふり返って心に残っているのは、まずは研修に、人身取引対策の現場であるシェルターやホットライン等のソーシャルワーカー、警察官、被害当事者団体や、女性団体スタッフ等、多彩な専門職が官民の壁を越えて参加するという状況です。問題を明確にしながら人身取引対策を展開しているタイの姿勢を実感しました。一方、私の担当の二次被害とトラウマのワークについては、当事者に苦痛を与えたり、苦境に陥れたりしないための言葉の選び方や振る舞いといった表面的なスキルの検討にとどまり、根底にあるジェンダーへの切込みが弱かったと反省しています。原因となるジェンダーを理解するところまで深められなかったことは心残りですが、一朝一夕で学べるものでもないの、今後もあきらめずに粘り強く取り組みを積み重ねていかれることを祈念します。



(ファシリテーターや通訳と共に左から石本・田上専門家)

ドナー会議 (8/21)

タイでは、3か月に一度、タイを中心に人身取引対策に関わっているドナーたちで、ドナー会議を行っており、今回 JICA タイ事務所が会議をホストしました。会議では、ドナーの活動状況の最新情報が共有されたあと、ゲストスピーカーとして Foundation for Women (FFW) の会長であるシリポーンさんがご自身の長年の人身取引対策の経験をもとに、タイの人身取引の状況の推移とその対策の歴史、そして現状の課題と今後の提言について講演を行いました。

また、USAID の職員から、人身取引報告書に対する話がありました。今年のランキングについて、特に注目されたのは、中国、ロシア、ウズベキスタンが Tier 3 という一番下のランクに落ちたこと、タイも現状が改善されないと来年 Tier 3 に落ちる可能性もあるということが報告されました。7月にアメリカ合衆国シーデバカ人身取引対策大使が訪タイされ、タイの人身取引対策に携わる省の高官や NGO と協議を行ったとのことでした。今年5月に新しく赴任された池田所長もドナー会議に参加され、ドナーと協力し合って、人身取引対策に取り組む必要があるという力強い言葉を頂きました。

同通信はプロジェクトの進捗状況及び関連情報をお知らせする目的であり JICA やカウンターパートの見解を示すものではありません。禁転載。